落雷事故防止への指針

大会事前に関係者に徹底すること.

1．当日の天気予報（落雷注意報）に注意する。
　天気予報で「上空に冷たい空気」「大気が不安定」「山ぞいはにわか雨」などがキーワードになる。
2．会場における避難場所の確認。
　安全な場所はどこか。
　鉄筋コンクリートの建物、自動車、バス、電車中の中等.
　立木、避雷針のh/2の距離のところ。
　地面に手をつかないで低い姿勢をとる。
　テントの中は屋外と同じく危険。雷は高い方に落ちる。特にとがった金属（傘、ピッケル、釣り竿など）体につけた小金属は関係ない。木の下は危険。人体は木より電気が通りやすく側撃雷を受ける。
3．大会中止の権限（責任）が競技委員長にあることの確認。但し、会場が複数、それも距離が離れているときには、複数の責任者を明確にしておく。
　雷活動がやんで２０分以上経過して動きだす。
4．大会要項に、雷鳴がかすかに聞こえたら、ただちに試合を中断する旨記載し、監督会で徹底をしておく。
5．大会スケジュールに余裕を持たせておき、早めに終わること。
　午後２時頃からが落雷は多い。
6．AMラジオの受信でも感知できる。
7．ＡＥＤの設置と講習会の実施。
　公共施設のものを利用するときには、どこにあるかを前もって確認しておくこと。
8．都道府県協会及び大会参加チームは､傷害保険と損害賠償保険に必ず加入すること。

公益財団法人 日本ソフトボール協会
指導者委員会